

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月11日
学校法人念法学園
幼稚園型認定こども園念法幼稚園

1. 本園の教育目標

『げんきなからだ・すなおなこころ・感謝のきもち』を園訓とし、よりよい環境の中で、直接的・間接的体験を積み、生涯にわたる発達の基礎を培う。

「心の教育」を主とした、心情・豊かな感情・意欲・態度など教育の根本とし、「生きる力」の育成に力を注ぎ、世の中のお役に立つ立派な人に育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標を重視する中で保育内容・環境を見つめ直し、より子どもの育ちに繋げるとともに、園生活での幼児一人一人の成長を保護者にわかりやすく伝える工夫をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育環境の充実を図る	B	・保育者それぞれの環境への意識が高まり、工夫がみられ、子どもの成長に応じた遊びの発展を考えた環境づくりがみられた ・環境チームが中心となって、園庭の遊びコーナーや縦割り保育など保育者自身で子どもの姿を読み取り工夫できた。
2	保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る	C	・ドキュメンテーション(おうちえん)を各クラス月2回配信し、保護者に園での子どもの姿を共有することができた。 ・保育室に1年間の行事やイベントごとの写真を誕生会、懇談、参観の時に見てもらうことができた。
3	教育の質向上のために教職員の園内・園外の研修を充実させる	C	・コロナの影響で外部研修の多くがオンライン配信となり、園で研修を受けられる良さがある反面、時間の確保に課題を感じた。 ・他園の公開保育(ECEQ®)に参加し、他園での取り組みを参考にすることができ、多くの学びがあった。
4	職場環境・業務内容の改善	D	・業務負担の偏りや、役割の明文化ができていないところがあり業務内容の改善があまり進まなかった。
5	安全管理	D	・新遊具の遊び方・注意点を考え共有できた。 ・園を飛び出すこどもがいたり安全面の強化が必要と感じた。 ・その他、園運営に必要な安全マニュアルの改善は進まなかった。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
C	<p>コロナ禍2年目もできる限りの感染対策をとり、子どもの育ちを1番に考えて保育を行った。2学期初めと3学期初めは、コロナによる休園を余儀なくされたが、休園時も子どもの育ちを考えて各クラスでオンライン保育をしたり、登園自粛をしている園児に向けたオンライン保育(ねんぼっぼルーム)を行うなど保育者を中心にできる限りの取り組みを行った。</p> <p>保育環境では、各保育者が工夫する姿、園庭については、話し合っ環境を作る姿がみられた。今年度からドキュメンテーション(写真付き保育記録)を取り入れ各クラス月2回子どもの様子を配信した。</p> <p>行事は、延期することはあったが、予定していた行事は、ほとんど実施することができた。保護者が参加する行事が思うようにできず、また保育者と保護者、保護者と保護者がコミュニケーションを取る機会を作ることが難しかった。難しい状況であるが、とても重要な部分なので次年度は、工夫して取り組むことが課題である。</p> <p>今後も、保育環境の充実、保育の可視化、教職員の質向上を図り、安全管理を強化し、教職員が充実して保育できる環境を作ることを目指す。</p>

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

◎「保育環境の充実を図る」

子どもの遊びから担任が自ら考えて玩具や備品を準備することで保育室の環境が充実した。園庭は、環境チームで話し合っ遊びのコーナーを作ったりすることで、新しい遊びもみられた。保育環境に対する保育者の意識に差があるので、切磋琢磨してより良い環境を作っていく。玩具や備品が充実してきているが子ども自身で何か作ったり、遊びを生み出したりすることが大切である。

◎「保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る」

従来通り、送迎時や電話で幼児の姿をわかりやすく伝えることができた。ドキュメンテーション(写真付き保育記録)を各クラス月2回配信し子どもの姿を保護者と共有することができた。今後は、配信回数を増やすことや内容の充実を図る。

◎「教育の質向上のために、研修を充実させる」

園内研修は、特別支援研修、教材研修、園内の課題に対する研修など実施することができた。教職員だけの園内研修の重要性を実感したと同時に回数を増やし共通理解を深めていくことが課題と感じた。

外部研修の多くがオンラインとなり園で受けることができるメリットはあった。園で受けることができるのはメリットがあるが時間の確保に課題があった。

研修に参加する受講者に差が見られたので各教職員が保育の質向上に繋げるために自分に何が必要か課題を感じて研修に参加できるように園全体として取り組む。

●研修実績

(園内研修)

教材研修 (はじめてのあそび・ぼこぼこ)

特別支援研修 (伊丹先生)

園内研修(関係構築ワーク・保育の可視化・環境構成・学期のふりかえり・
(教育方針の理解)

(外部研修)

(一社) 大阪市私立幼稚園連合会主催研修会

「子どもの姿から遊びを広げる環境を考える」「保護者に寄り添うために」

「多文化共生保育」「保育と集団形成」「幼児の言葉の理解と支援」

「科学あそび」「園内研修の進め方」「子どもと楽しむ音楽遊び」

「子どものための歌唱指導法」「幼児期の食物アレルギーと緊急時の対応」

「気づきの質を高める」「危機管理・危機発生時の対応と子どもの心身のケア」

「幼児期の子どもの学びで育ちを小学校につなげるということ」

「音楽遊びの指導法」「造形遊びから表現を育む」「幼児期の食事について」

(一社) 大阪府私立幼稚園連盟主催研修会

「ファシリテーターフォローアップ研修」「若手保育者育成者研修会」

「ECEQ®コーディネーター研修」「こども発見」「自然遊び」

「3歳児クラスの絵の具」「幼児のことばの理解と支援」「乳幼児の重大事故予防」

「幼児期における音楽教育のあり方」「アタッチメント非認知的な心の発達」

「子どもの理解と関わり方の視点」「保育の記録・可視化・発信の重要性」

「子どもの想いをつなぐ遊びの環境を整える」「カウンセリングマインド」

「子どもの主体性を育む保育の役割」

大阪府

「令和3年度幼稚園新規採用教員研修「全8回」

「幼児教育アドバイザー育成研修」

「支援教育コーディネーター研修」

公開保育

「あけぼの幼稚園」「ながいけ認定こども園」「喜連幼稚園」

その他

「リーダーのための対話力アップ勉強会」

「保育者と子どものための発達支援セミナー」

「これから取り組みたい園づくり」

「学校評価の充実について」

◎「職場環境・業務内容の改善」

- ・業務負担の偏りや、役割の明文化ができていないところがあった。業務内容の改善があまり進まなかったため、次年度から組織体制を見直す。
- ・子どもに関する保育者同士の対話が増えるようにお互いのことを知り、関係性を深める。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育環境	<ul style="list-style-type: none">・異年齢の関わりを増やすために縦割り保育を月1回(年10回)以上取り組む。・保育室の環境をより良くするために園全体や各学年で話し合う機会を作り改善していく。・外部講師を招いて園内研修をして保育環境の見直す。
2	保育の可視化	<ul style="list-style-type: none">・ドキュメンテーションの回数を増やすことや内容を充実させる。・写真だけでなく動画も使って保護者へ共有する。・保護者との対話する機会をつくる。
3	研修の充実	教育の質向上のために、研修計画及び新任教育課程を作成し、園内研修の充実を図る。また、園外研修へ積極的に参加できる体制を整える。
4	組織運営	<ul style="list-style-type: none">・職員会議、学年会議の活性化を図る・職員間の情報共有を徹底する。・明確な運営・責任体制を整理する。
5	安全管理	<ul style="list-style-type: none">・新遊具の遊び方・注意点のマニュアルを作成する。・その他、園運営に必要な安全マニュアルの改善を図る。
6	その他	<ul style="list-style-type: none">・念法保育園児との関わりを持てる機会をつくる。・子育て支援を充実する。

6. 学校関係者の評価 (保護者2名 (PTA会長・副会長) 地域の方1名 念法学園 評議員1名)

- ・縦割り保育(異年齢保育)は違う年齢の子どもと関わることで違う刺激やつながりができるので積極的に取り組んで欲しい。
- ・異年齢の交流は、日常の中に非日常を入れることになり子ども自身にも刺激になるので良い取り組みである。
- ・保護者に写真を使って保育の様子を伝えることは、親と子どもが話すきっかけにもつながるので今後も継続して取り組み、配信頻度を増やすなどの取り組みがあってもいい。
- ・施設における安全対策は、難しい。命を最優先に様々なシミュレーションをして園児を守る体制を作るべきである。安全マニュアルの作成、教職員への周知を徹底して欲しい。
- ・教職員が受けたい研修を受講できる体制は良い。各自、研修を受講する回数を設定するなど教職員の意識が高まる工夫をしても良いと感じた。研修は、業務時間内で受講できる体制をとることは大切である。
- ・子育て支援は、保護者同士を繋げる大切な取り組みである。出産後だけでなく、出産前の親に対する支援も考えて良いと思う。